

**HUMANE
INTERNATIONAL
NETWORK
(HINT)**

—————HINT News Letter No. 60 目次—————

Page1: HINT 創立 30 周年記念会のご案内
Page2-3: ごあいさつ HINT 創立 30 周年を迎えて
Page4-9: アフリカ事業
Page10-12: ベトナム事業
Page13-14: 2024 年度総会報告 会費納入者・寄付者名簿
Page15: 映画・ドキュメンタリーの紹介
Page16: ブカブ現地報告 HINT30 周年記念募金のお祝い
HINT 事務局からのお知らせ

HINT 創立 30 周年記念会のご案内

—第 45 回エポペ・チャリティクリスマス—

日時 : 12 月 21 日 (土) 14 時 00 分~15 時 30 分 (受付 13 時 30 分)

場所 : ミサ会場 **カトリック麴町教会ザビエル聖堂**

後援費 : 1,000 円 (JR・地下鉄四ツ谷駅より徒歩 1 分)

東京都千代田区麴町 6-5-1 TEL. 03-3263-4584

記念会後に有志による懇親会開催予定 (会費別)

※ お申込み「エポペお問い合わせフォーム」⇒ <http://www.epopee.co.jp/>

司式 オノレ・カブンディ神父 淳心会司祭 (コンゴ民主共和国出身)



HINT (東京都認証 NPO 法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク) は、1994 年に発生したアフリカのルワンダ虐殺時の難民支援のために、G・ネラン神父創設の「エポペ (美しい冒険)」に集った人々を中心に創設された東京都認証 NPO (非営利活動) 法人です。現在はイエス・キリストの教えに従い、開発途上国における教育や保健医療、農村開発などを通じて、国境を超えた支援活動を続けています。息の長い継続が必要な奨学金運営では 30 年間に及ぶ実績があり、教会や他団体との連携を活かしつつ、貧困状態が続く地域で多くの人材と希望を育てています。

ごあいさつ HINT 創立 30 周年を迎えて

HINT 代表理事 進藤重光

◇エポペに集う人々

特定非営利活動法人（東京都認証）HINT（ヒント/Humane International NeTwork）は、ボランティアという言葉や NGO（非政府組織）、NPO（非営利団体）という名称が、未だ一般的ではない時代に生まれました。

1980 年代、多くの市民による日本からの国際的な支援活動は黎明期で、カトリック教会の仏人宣教師である G・ネラン神父（公益財団真生会館元理事長）創設のエポペには、さまざまな NGO の多くのスタッフや市民、サラリーマンが集い、国際的な支援活動やボランティアのあり方について語りあっていました。

そのような中、カトリック東京大司教区 100 周年（1991 年）を機に白柳誠一大司教（後に枢機卿）の呼びかけで、東京国際司牧センターの設立が決定。東京大司教区国際司牧委員会のメンバーとして、エポペの代表役員であった進藤も大司教から任命を受けました。

滞日在外国人を知りサポートをするための 100 周年記念事業パンフレット「Do you know?」の制作や、大司教館内に事務局が置かれたカトリック東京国際司牧センター（後にカトリック東京国際センター〈C-TIC〉と改称）の設立、外国人労働災害の補償についての交渉、ボランティア養成や支援者の登録リストのシステム化などの業務に携わりました。

◇HINT の始まり

1994 年、アフリカのルワンダで 100 万人に及ぶ凄惨な虐殺が発生。バチカン（ローマ教皇庁）から世界各国の教会に対して、救援団を派遣するように緊急要請がありました。急遽、日本の NGO であるカリタスジャパン（カトリック中央協議会）からも多くの難民が避難したルワンダの隣国コンゴ民主共和国（以下、コンゴと略）の東部の都市、ブカブに救援団が派遣

されることが決定されました。

私は第二次ブカブ難民救援チームの団長・プログラムコーディネーターとして任命され、カリタスジャパンの難民救援クリニックを立ち上げるために、大量の医薬品と 3 名の看護師、1 名のロジスティック・マネージャーと共に日本を出発。ナイロビを経て、コンゴに到着。セスナ機をチャーターし、現地入り後は安全を考慮した宿舎を選定、ルワンダでロジスティックのための車両を購入、難民キャンプ内での食糧の配給、仮設テントでのクリニック設営、マラリア等に罹患したスタッフのケア、国連機関や国際 NGO との連絡調整、日本に向けての現場からの実態報道にも従事しました。

同時に、留守を預かるエポペ内にも現地支援のための事務局が置かれ、募金活動が開始されました。現地からの携帯用衛星通信機器を経由し、ルワンダ難民の状況と同時に、難民以上にコンゴの子ども達の悲惨な状況についての報告を受けた事務局では、現地の子どもの奨学基金の設立準備が始められました。

こうして、ルワンダ難民がコンゴに多数避難している最中、1994 年 12 月 24 日のクリスマスの夜にエポペに集う百名以上の方々が見守る中、進藤が代表に就任、市民や社員が中心の NGO・HINT（2002 年 12 月には東京都より特定非営利活動法人に認証）が生まれました。

◇アフリカとベトナムでの活動

翌年の 1995 年 1 月には、阪神淡路大震災での救援・炊き出し活動を皮切りに、コンゴに住む部族の壁を超えた教育を行うことを目的に、現地でのコーディネーター仲間だったコンゴ人スタッフのタデー氏と進藤とが話し合い、人種や部族を超えた教育こそが未来を変えることができるとの意見で互いに一致。協力して、4 名の貧しい大学生に対しての奨学金を支援するプロジェクトからスタートしました。

2011 年に G・ネラン神父が天に迎えられ、エポペは多くの人々に惜しまれつつ 31 年間に及ぶ幕を閉じました。そして、私がカトリック系

研究所で、『聖書と典礼』などを出版発行する実務責任者になってからも（奇しくも上司はコンゴ人司祭）、この働きは、皆さまの力強いお支えによって粛々と続いてきました。

その後もイエズス会社会司牧センター所長（当時）の安藤勇神父からの要請を受け、ベトナムのファンティエット地区でも特に厳しい生活をしている少数民族と貧しい農村地域への支援を開始。日本人医師による子どもたちへの健康調査を皮切りに、飲料水の汚染や必須栄養素の不足などの問題を解決するために、深堀井戸や衛生的なトイレ設置の支援、漢方薬剤師の養成、学校や診療所の建設を実施。他の NGO とも協働しての漢方薬農園を開設、そして、貧しい農村地域で働く医師になることを願った地元修道会のシスターに奨学金を送り、無事に卒業まで支援を実施しました。（ベトナムプロジェクトは、現地ファンティエットの NGO 代表でもあったホアン司教とコーディネーターのニン氏の死去、支援資金の減少により残念ながら現在は休止中です）。

◇のべ1,000人以上の奨学生支援

その後もアフリカプロジェクトは、規模を中高生や小学生へと広げながら維持され、30年間で、のべ1,000人以上の奨学生に学業継続のため機会を提供しました。当会の奨学金支援の特徴は、学費の支援だけでなく、子ども



たちへの直接の食料や学用品の支援も含まれていることです。これらの対応は、1日2回食べることも儘ならない最貧国の子どもたちの厳しい現状を踏まえたものです。開発途上国の都市部でのプロジェクトからではなく、今も繰り返される内戦で最貧国の一つでもあるコンゴの中でも非常に貧しく厳しい環境の東部ブカブに住む奨学生たちから、医師や教師、看護師や経営者、検察官をはじめとする国家公務員など、社会のために働く多くの人々が長年にわたり輩出されていることは、非常に稀有なことと申し上げることができます。

この間、AMDA や JANIC、東京 YMCA、ワイズメンズクラブ国際協会などの国際 NGO・NPO、教会、公益財団に、さまざまな形でのご支援ご協力をいただきましたことを、この場をお借りしまして、心より厚く御礼を申し上げます。

「自分たちにできることを、できるときに、できるだけ続けていこう。」という合言葉を支えに、役員一同で努力を重ねて参りましたが、奨学金事業という息の長い支援が必要な活動に対して、ご協力をいただきました支援者お一人お一人と、歴代の役員と家族に、あらためて深甚なる感謝を申し上げます。そして本年も9月からの新学期を迎え、今期の奨学生たちの勉強もスタートいたしました。どうか、彼らの未来が明るいものになるよう、皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

アフリカ事業



若き日の現地コーディネーターのムサギ・キタンガリワ・タデー氏（左）とワタキシ・ワンガ・ミリアム氏（右）
©桃井和馬

ルワンダ難民救援プロジェクトのためにコンゴやルワンダに派遣されていた当会の代表と、コンゴの教育委員会で働いていたワタキシ氏、小学校の教師で日本のNGOのスタッフだったタデー氏（現在はフリーメソジスト教会の牧師）夫妻との出会いが、HINTのアフリカプロジェクトのスタートとなります。

そして、食事も満足にできないような貧しい中でも、人種や部族の壁を超えて子どもたちを教育することができたらという夢が現在のHINTの活動の原点です。

この創立30周年の機会に、HINTの支援者の方々のおかげで卒業し、今では立派な社会人になっている、かつての奨学生たちからの皆さまへの深い感謝の言葉をお伝えいたします。



教師となった奨学生と教え子たち ©桃井和馬

◇卒業生たちからのメッセージ

Dr. アラン・ムサギ・イドンボ



私はムサギ・キタンガリワ・タデー氏のアシスタントを務めています。コーディネーターのムサギ氏が不在の場合、私は生徒への学用品の配布を担当しています。

私はシャブンダ保健地域のマティリ病院で医師をしています。私はAction Humanitaire pour les Déshérités (AHD/HINTのカウンターパートの現地NGO。代表ムサギ・キタンガリワ・タデー氏)を通じてHINTの奨学金を受けるという恩恵にあずかりました。この恩恵の影響は非常に大きく、肯定的なものでした。この奨学金のおかげで、私たちは何もない状態から、現在の自分たちへと成長することができました。

いま、私たちは病気の地域社会を支援し、彼らの健康を回復させるために国のために奉仕しています。これは私自身、そしてコンゴの人々にとって常に肯定的な影響を与えています。そして、HINTとAHDに心から感謝しています。

私たちは、この思いやりのある行動が、絶望的な状況や脆弱な状況に置かれている他の学生たちにとっても素晴らしい希望となることを願っています。この奨学金のおかげで、学問

の喜びを得られることは、非常に進歩的で賞賛に値するものです。HINT/AHD が小学校、中学校、高校、大学だけでなく、修士号や博士号を目指す意欲や能力を持つ人々にも、その支援が広がることを願っています。

私たちの貢献として、配布活動に参加しており、将来的には物的または金銭的な形で HINT や AHD の発展を支援し、この地域社会の利益のために尽力することを目指しています。

HINT と AHD に感謝し、私たちを今日の自分たちにしてくれたことに感謝します。HINT/AHD のパートナーシップが長く続くことを願っています。HINT と AHD のパートナーシップの記念日を心からお祝いします。

カンキシング・ムカンビルワ・ギュスタヴ

HINT と AHD の 30 周年記念にあたり、お祝いの言葉を申し上げます。そして、このパートナーシップが未永く続くことを願っています。

私はギュスタヴ・カンキシング・ムカンビルワと申します。タンガニーカ州のカレミにある高等裁判所検察局で検察官を務めています。

私は HINT 日本と AHD コンゴのパートナーシップによる奨学金の受益者です。この場を借りて、私が受けた学費支援に対する深い感謝を表明します。この支援のおかげで、私は現在の自分になることができました。

私の資金は限られており、HINT アフリカプロジェクトの全ての活動を支援することはできませんが、このプロジェクトを永続的にすることを望んでいます。

現在でも、困難な状況にある子どもたちへ



の学用品の提供などに支援を行っています。

HINT 日本が人道支援組織や善意ある寄付者に働きかけ、このプロジェクトをコンゴで引き続き支援してくれることを願っています。

改めて、30 周年記念を心からお祝い申し上げ、深い感謝を伝えます。

Dr. ムサンガ・マハンゴ



私は Dr. ムサンガ・マハンゴです。カトリック大学ブカブから一般医学の博士号を取得しており、現在は婦人科部門の責任者として主治医を務めています。

私は HINT 奨学金を受けた学生の一人で、小学校と中学校の頃からこの重要な支援を受け、学用品の提供や学費の支払いをしていただきました。個人的に、この取り組みを称賛し、2つの NGO に深く感謝しています。このイニシアチブが現世代や未来の世代のために継続されることを願っています。そして、他の子どもたちもこの支援を受けられるよう、この活動の持続に私たちも関与すべきだと思います。

HINT 設立 30 周年、おめでとうございます。HINT と AHD のパートナーシップが未永く続きますように。ムサギ氏、そして組織のすべてのメンバーに感謝します。皆さんに神の祝福がありますように。ありがとうございます。

ナグンドウ・ムサギ・アベリス

私はナグンドウ・ムサギ・アベリスと申します。コンゴのブカブにおける HINT 日本と AHD のパートナーシッププロジェクト「HINT アフ



リカプロジェクト」においてソーシャルワーカーとして従事しています。

私は平和と開発の学士号を取得しており、ブカブ地方開発高等研究所（ISDR Bukavu）で地域計画を専攻しました。その後、2012年にアフリカ福音主義大学（UEA Bukavu）の平和と開発学部で修士課程を修了しました。中等教育から大学まで奨学金を受けており、現在は教務主任（CT）として活動しています。

現在、私は米国のシカゴ大学と協力して研究を行っており、北キヴ州ワリカレでキヴ地方の社会経済プロジェクトに関する調査を進めています。HINT 日本と AHD のコンゴでの 30 周年記念とそのパートナーシップに関連して、この 30 年間の成果を報告する機会をいただきました。このパートナーシップは、コンゴの学生全般、特に南キヴ州ブカブの学生に対して、多大な恩恵をもたらしてきました。支援を受けてきた者として、私たちは困窮する人々を助けるために尽力する思いを抱いています。

しかし、HINT と AHD のパートナーシップは、適切な資金（学費、寄宿費、食料費、教材費、交通費など）の不足により困難に直面しています。HINT の代表は、「空腹の子どもが授業に集中できるのか」と問いかね、私たちは「空腹では学べない」という現実を理解しました。プログラム開始当初のように支援者を探し出し、再び支援を行う必要があります。

コンゴは紛争後の国であり、多くの未亡人、孤児が存在します。その中で、私の研究と出版

物では、HINT が「F. X. SHINDO」または「HINT」という名の小学校・中学校を建設することを提案しました。この施設は、パートナーシップを永続的に記憶に残す指標となり、支援を受けた子どもたちやコンゴ国民にとって重要な存在となります。直接的な対象は HINT から支援を受ける子どもたちであり、間接的には経済的に困難な家庭の子どもたちを含み、学費の支払いが学校運営の貢献となります。

今日、HINT の支援を受ける学生の数は、独自の施設がないために減少しています。このため、この教育施設の建設は極めて重要であり、永続的な記念碑となるでしょう。また、学校の運営に関わる職員、教師、労働者、そして生徒の保護者たちにも経済的な負担軽減の恩恵をもたらします。これら 2 つの施設は、HINT 日本と AHD の絆を未来に渡って守り続け、多くの子どもたちの証言を通じてその重要性が語り継がれるでしょう。

私は 2008 年から HINT と AHD のボランティアとして、学用品の配布や、学生の家庭訪問・学校訪問を行っています。HINT 設立 30 周年および HINT と AHD のパートナーシップ 30 周年を祝う機会を心よりお祝い申し上げます。

ナグンドウ・ムサギ・アベリスより、心から感謝を込めて。

ガブリエル・ムガンザ



小学校の時に奨学金をいただき、その後、看護師になるための勉強ができました。現在は看護学校で指導教員をしており、疫学のMBAを勉強しています。

HINTのおかげで、勉強の基礎ができて、今の自分がMBAの勉強ができています。

ムカンビロ・ドロテー

30周年おめでとうございます。

誠にありがとうございます。他の人が奨学金を受け取れるように自分も貢献したいと思います。私は、公衆衛生科を卒業しており、現在はその仕事に従事しています。すべてHINTのおかげです。HINT万歳！ HINT会員万歳！愛を込めて。

ワタキシ・ムサギ・ダビッド・ケンデル

私は大湖地域自由大学で経済学および経営学と企業組織の学士号を取得しました。現在は自由業を営む個人事業主です。私はブカブにおけるHINTとAHDの協力による奨学金の恩恵を受け、それにより高等教育を修了することができました。この奨学金は私にとって非常に役立ち、ありがたいものでした。というのも、コンゴでは誰もがこのような恵みを受けられるわけではなく、私たちは幸運にもAHD/HINT 日本の奨学金受益者の一員となる機会を得たからです。

この活動は非常に有益でした。当時の国の状況、特に東部地域で戦争が激化していた状況では、多くの親が学費や教材、その他の学用品を子どもたちに提供することが難しかったのですが、私たちはこの恩恵を受けることができました。この組織の努力のおかげで、私たちは現在の自分たちになれたのです。本当に感謝しています。私たちの学業過程において、自分たちで自分を支えるだけの十分な手段がなかったため、この組織の支援がなければ、今日の私たちはありませんでした。この素晴らしい取り組みに心から感謝します。私はこの活動が今後も継続されるべきだと思います。



多くの人々にとって非常に助けとなるものであり、私たちの地域においては経済状況が非常に厳しい中で、大きな支えとなるからです。この活動が後に続く人々にも広がり、大きな影響を与えることを願っています。私自身の貢献として、HINTとAHDに提案するプロジェクトを立案し、この取り組みにさらに寄与したいと考えています。このようにして、この支援の輪が途切れることなく続き、未来の世代にも恩恵がもたらされることを願っています。ありがとうございます。

ムサギ・タデー



私はブカブ大学で経済学を学び卒業しました。中学から大学まで奨学金をいただきました。

家族が低収入にもかかわらず勉強を終えられました。おかげで、今では仕事も社会的地位もあります。大変 HINT に感謝しております。

どうか、もし可能なら更に広めてください。多くの若者が勉強したいが、できずにいるからです。

セレスタン・マハンゴ・ルベンベラ



AHD のスタッフです。おめでとうございます。私はコンゴのブカブにある AHD（恵まれない人々のための人道支援活動）のメンバーです。この組織は限られた資源の中で恵まれない子供たちを支援する人道的な活動を行っています。

AHD は HINT 日本とのパートナーシップを結ぶという特権を得ており、本日、HINT 日本が設立 30 周年を迎えることを知り、とても嬉しく思います。この特別な機会に、HINT 日本のパートナー団体のメンバーとして、この組織と HINT 日本のすべての友人たちにお祝い申し上げます。

また、HINT 日本が子供たちに提供してくれた支援、特に代表の協力を通じた支援に心から感謝いたします。この支援により、多くの子どもたちが小学校、中学校を卒業し、さらには大学まで進学することができました。私たち

は、ムサギ・キタンガリワ・タデー氏が率いる組織を通じて、HINT 日本に定期的に報告書を送る喜びを感じてきました。

今後も HINT 日本が AHD コンゴとのパートナーシップを忘れず、困難な状況にある多くの恵まれない子どもたちを支援していただけることを願っています。このパートナーシップをさらに強化し、関係がより強固になることを望んでいます。そして、HINT 日本の活動が私たちとともに続き、この素晴らしい人道的取り組みが永続的に続くことを願っています。HINT 日本の若者支援に対する貢献に深く感謝し、パートナーとして感謝と喜びを表明したいと思います。改めて、HINT 日本設立 30 周年おめでとうございます。

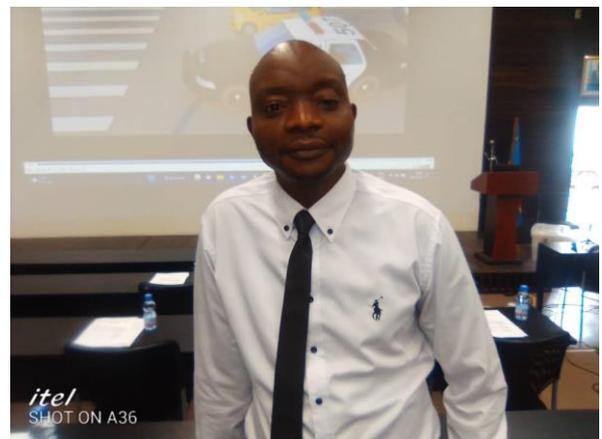
マテイオ・ムシグア・カンゲラ

コンゴ政府国土交通省の公共政策の戦略・運営計画の専門家であり課長です。大学では AHD 経由で奨学金をいただきました。

30 年とは人でも団体でも経験の積んだ年齢だと言えるでしょう。奨学金のおかげで大学を卒業することができ、国のために働くことができています。最初は郵便通信大臣の秘書で、今は冒頭に話したように研究企画部です。

どうか、HINT の活動が続きますように、他の奨学生を助けられるよう。この提携が永久化しますように願っています。

コンゴの給料は高くありませんが、旧奨学生も援助して奨学金の継続に貢献すべきだと思います。30 周年おめでとうございます。



テロン・ボボチ・ゲリ

数人の最初の奨学生です。確か96年でしょうか。中学校で大変有意義な援助をいただき、感謝が大きすぎて言葉に詰まります。

どうか是非とも続けてくださいますようお願いいたします。

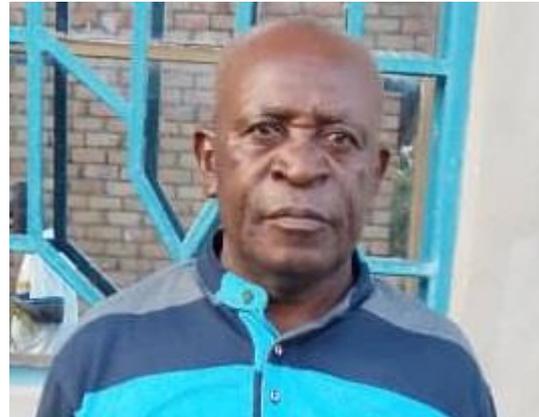
ジョン・シャバネ・キーカ

私はジョン・シャバネ・キーカと申します。ブカブのUOB（ブカブ大学）で政治学と行政学の学士号を取得しました。

HINT 日本が設立30周年を迎えたという知らせを聞き、とても嬉しく思います。私がこの喜びを感じる理由は、この組織が私の学業を支え、学用品を提供し、全ての学費を負担してくれたからです。AHD/コンゴを通じたこの支援のおかげで、私は現在、社会において新しい自分として活躍できています。このような支援が今後も続き、他の若者たちもその恩恵を受けられるよう願っています。私自身も、次回はこの活動の継続に貢献できるよう努力したいと思っています。

HINT 日本とAHDコンゴのパートナーシップ

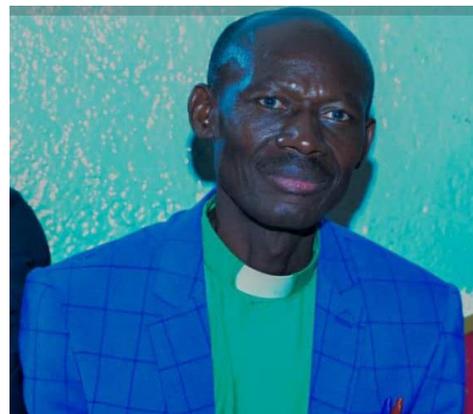
が末永く続きますように。そして、HINT 日本の設立30周年を心よりお祝い申し上げます。寄付者の皆様、そしてHINTの執行委員会に感謝いたします。ありがとうございます。

ワレンガミナ・エササ

大学で応用教育学（フランス語）とアフリカ言語学を勉強し、卒業しました。大変感謝しており、おかげで今の自分がいます。神に仕えます。30周年の喜びを皆さまとともに分かち合っています。戦争の当時に手を差し伸べていただきましたが、どうか平和の時も戦争の時も続けてください。

アビマシ・アブ・カレブ

ブカブ教区リーブレのメトード教会の牧師を務めています。牧師だけでなく、コンゴの一般的な国民が非常に貧しいことは誰もが知っています。日本のHINTからコンゴの子どもたちが奨学金をいただき、大変感動しました。心からの感謝をお伝えいたします。



ベトナム事業



HINT が建設した学校校舎での健康診断

イエズス会社会司牧センターの安藤勇師（イエズス会司祭）から依頼を受けた HINT のベトナム事業は、1996 年にベトナムの少数民族ラグライ族が住むタン・ハー村での、学校校舎の建設資金を援助したことから始まりました。1997 年には、上水道（井戸）の建設資金の援助、1998 年には（財）東京国際交流財団の助成を受け、ラグライ族への保健衛生指導プロジェクトを実施しました。

さらに、村の無料診療所を建設、医薬品購入資金の提供を開始。子どもたちの栄養改善を図るために乳牛を贈るプロジェクトも始まり、2000 年には乳牛 4 頭分の購入資金を贈りました。

この乳牛から毎日搾乳したミルクは衛生的な厳しい管理のもと、現地の子どもたちに無料で提供されました。幼児期に不可欠な必須栄養素が足りないことや不衛生な水で生じるトラコーマなどの病気が劇的に改善、子牛も次々に生まれました。他の NGO と協力し肉牛や養豚事業も開始されました。



漢方薬の乾操作業



HINT が建設した深井戸

◇ 薬草園と医師の養成プロジェクト

2002 年には、タン・アン村にも無料診療所が完成し、現地の人々の保健医療水準の向上に貢献しています。その後、現地の人々に雇用の機会と具体的な現金収入につながるプロジェクトとして、10ha の薬草園（ハーブ）を建設。広大な敷地内で薬草の栽培と同時に、漢方（伝統薬）薬剤師と薬草園管理者の育成をしています。

シスター1名が医学部に合格したため、一般（西洋医）の医師の養成も含め、HINT はこの医学生たちの養成費用を担いました。薬草は現地の人々の健康のためにもなっており、並行して生花の販売も行いながら、貴重な現金収入源となっています。



養豚事業



HINTによる子どもの胸囲測定



HINTが建設した診療所

◇貧しい理由

この地域に住む人々は、住民の多くがベトナム戦争時に北部から避難してきた人々と、定住化政策で移ってきた山岳少数民族です。ホーチミン市内に入ることは難しく、土地が痩せている場所に定住を余儀なくされたため、貧しい生活となっています。

世界的な不況の影響が現地を襲っており、貧しい人々が南下していることも大きな問題です。政府にも十分な資金がなく、ホームレスが増えているのが現状でした。現地の教会では、これらの人々のために住む場所を提供し、多くの人々を受け入れました。

◇教会の取り組み

現地の教会では貧しい人々には薬草を無償で提供するだけでなく、苦しい生活を続けてきた農家のために子豚の貸し出しも行いました。子豚と餌代を農家に貸し出し、成長して子豚が生まれた後

に売って現金収入を得て、餌代と一緒に子豚を返すというシステムです。薬草園の敷地内に設けた豚舎で生まれた子豚により、継続的で循環的な支援を行うことができるようになりました。貧しかった農家にも現金収入が入る道筋が見えてきたのです。

現地の教会の責任者ホアン司教は2014年に帰天され、シスターリエンも医師となることができましたが、弊会の資金難によりベトナム事業は休止の止むなきに陥っております。役員一同としましては再開を願っておりますが、厳しい状況は改善されておられません。ここに祈りを込めて、皆さまにご支援（ご送金の場合は「ベトナム特定寄付」とご明記ください）をお願いいたしたく、シスターリエンからの最後の手紙を掲載させていただきます。

◇シスターリエンからのメッセージ

親愛なるヒントのすべての皆さまへ、私は最初に、皆さまが健康で平和であるという願いと



遮光と灌漑設備のある薬草園



HINTが建設した集中灌漑用深井戸



漢方薬剤師とホアン司教

尊敬を込めた挨拶を送ります。

私はシスター・マリア・マルティノ・グエン・ティ・リエンと申します。ベトナムのファンティエット教区の慈善・社会奉仕協会（SCSS）の修道女です。コーディネーターのニン氏を通して、私は皆さまからの贈り物を受け取りました。私は心からヒントのすべての会員に心から感謝しています。

おかげさまで、私は医学部を卒業し、現在は医師として働いています。私の現在の状況をお伝えすると、健康診断や精神病患者、ハンセン氏病患者の担当として働いており、比較的よい環境で、この仕事にやりがいを感じています。

2014年の8月に、私は、協会の創設者で霊的な父であったポール・ニュエン・タン・ホアン司教が帰天するという、大きなショックに直面しました。私は深い悲しみに沈んでしまいました。今では穏



HINT が建設した診療所での治療

やかな気持ちになって、ハムタン病院に医師としての仕事に行っています。

修道会では、人事編成の責任者となっており、その自分の仕事をやり遂げるのは大変に難しいことです。私は自分の共同体の養成プログラムに役立つ基金を探しています。ご承知のように私たちは、霊的な面とお金と両方が欠けており、ホアン司教が会の使命として私たちに託した「福音を貧しい人々に運ぶ」ための理念を続けていくために支援して下さるドナーと沢山祈って下さる人々が必要です。

どうか、私たちのために祈りいただき、そして物心両面でのご支援を継続して下さいますよう、心からお願い申し上げます。

私たちは、皆さまに深く感謝し、常に、祈りの時間ごとに皆さまのために祈りをささげています。

願わくは主が、祝福された方聖母マリアのロザリオ祈りの取り次ぎを通して皆さまを祝福し、皆さまが喜びと自信を持って仕事をする事ができるよう、健康と平和とがいつもあなたを幸せにしますように祈りしています。



在りし日のホアン司教と

HINT 奨学金で医師になったシスターリエン

2024年度総会報告

下記のとおり、2024年度総会を開催しました。すべての議案が承認可決されましたので、ここにご報告いたします。

記

- 日時：2024年6月29日(土)14:00～14:40
- 場所：新宿区戸塚地域センター5階会議室3(東京都新宿区高田馬場2-18-1)
- 正会員数11名(出席3名、委任状8名)

1. 2023年度事業報告

アフリカ事業

2022年9月に始まり、2023年6月に終了した学期では、小学生15名、中高学生31名、合計46名の児童・生徒の学資支援事業を実施しました。

2023年9月に始まり、2024年6月に終了の学期では、小学生8名、中高学生36名、合計44名の児童・生徒の学資支援事業を実施しております。

皆さまの温かいご支援に心より深く感謝申し上げます。

2. 2023年度決算報告

右記をご覧ください。

3. 2024年度役員改選

代表	進藤	重光(再任)
事務局長	石田	達也(再任)
事務局長代行	長野	圭子(再任)
理事	高橋	章(再任)
理事	桐山	泰柁(再任)
理事	野坂	俊弥(再任)
監査	武井	秀彦(再任)

4. 2024年度事業計画

アフリカ事業では、新たな奨学生の選考も終わり、現地の新学期の9月より、前年度同様に支援を行っております。ベトナム事業では、来年度30周年に向けて事業の見直し(中止か継続の選択)を行う予定です。詳細につきましては、事務局保管の議事録を参照していただきますようお願いいたします。

5. 2024年度予算計画

次ページをご覧ください。

世界的な物価高騰とドナーの高齢化により、設立当初からみると数百万円規模のご寄付の減少で厳しい経済状況が続いております。皆さまの温かいご支援が頼りです。何卒ご協力の程、よろしく願いいたします。

2. 2023年度決算報告

2023年5月1日～2024年4月30日 単位：円

I	経常収益	
	1 受取会費	
	正会員受取会費	85,000
	賛助会員受取会費	465,000
	2 受取寄附金	
	受取寄附金	9,551
	3 受取助成金等	
	受取補助金	0
	4 事業収益	
	普及啓発事業収益	200
	5 その他収益	
	受取利息	0
	経常収益計	559,751
II	経常費用	
	1 事業費	
	(1)人件費	0
	(2)その他経費	
	経済的支援事業	
	奨学金	288,054
	保健衛生費	0
	福利厚生費	59,204
	送金手数料	30,000
	普及啓発事業費	
	出展料	0
	原材料費	0
	会議費	0
	講師謝礼	0
	雑費	10,000
	広報事業費	
	通信費	25,872
	印刷費	12,198
	消耗品費	2,090
	その他経費計	
	事業費計	437,418
	2 管理費	
	(1)人件費	0
	(2)その他経費	
	通信費	25,561
	会議費	4,500
	消耗品費	0
	印刷費	0
	雑費	0
	その他経費計	30,061
	管理費計	30,061
	経常費用計	467,479
	当期経常増減額	92,272
	税引前当期正味財産増減額	92,272
	法人税、住民税及び事業税	0
	当期正味財産増減額	92,272
	前期繰越正味財産額	599,561
	次期繰越正味財産額	691,833

5. 2024年度予算計画

2024年5月1日～2025年4月30日 単位：円

I 経常収益	
1 受取会費	
正会員受取会費	120,000
賛助会員受取会費	530,000
2 受取寄附金	
受取寄附金	15,000
3 受取助成金等	
受取補助金	1,000
4 事業収益	
普及啓発事業収益	15,000
5 その他収益	
受取利息	1,000
経常収益計	680,000
II 経常費用	
1 事業費	
(1)人件費	0
(2)その他経費	
経済的支援事業	
奨学金	320,000
保険衛生支援	100,000
福利厚生費	400,000
送金手数料	50,000
普及啓発事業費	
出展料	20,000
原材料費	50,000
会議費	20,000
講師謝礼	20,000
雑費	0
広報事業費(情報機器)	200,000
通信費	40,000
印刷代	30,000
消耗品費	10,000
その他経費計	1,290,000
事業費計	1,290,000
2 管理費	
(1)人件費	0
(2)その他経費	
通信費	50,000
会議費	10,000
消耗品費	10,000
印刷費	10,000
雑費	1,833
その他経費計	81,833
管理費計	81,833
経常費用計	1,371,833
当期経常増減額	-691,833
税引前当期正味財産増減額	-691,833
法人税、住民税及び事業税	0
当期正味財産増減額	-691,833
前期繰越正味財産額	691,833
次期繰越正味財産額	0

会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿
(2024.5.1-10.31・順不同・敬称略)

森川 浩一郎	石田 達也・倫子
石間 裕	酒井 匠
品田 和之	高澤 佳代乃
野坂 俊弥	比嘉 勇也
岡田 直子	村井 厚子
神山 和美	市川 幸一
畠山 千秋	加藤 順子
武田 知子	谷口 義武
石原 達哉	山田 篤
清水 弘一	桐山 泰桓
サカエ ハルヒコ	長野 圭子
四條 淳也	末永 秀雄・美津代
古城 かほる	武井 秀彦
藤井 靖彦	東矢 高明
匿名の皆さま	

ご支援・ご協力ありがとうございました。

★期間内にご寄付をされた方で、名簿未掲載の場合は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。
★封筒ラベルの一番下にある日付が、貴方の最終振込み日です。

★郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は郵便局から事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書でご記入いただきますと大変助かります。

★特定事業へのご寄付は「特定寄付」でアフリカか、ベトナムのいずれかをご明記ください。

会費振込のお願い

皆さまの会費やご寄付が命綱です。お振り込みは同封の振込用紙を使用していただくか、下記口座へお振込みくださいますようお願いいたします(賛助会員：1口5,000円・学生会員：1口2,000円。ご寄付はどうぞご随意に)。

■郵便振替：00120-1-596327

口座名義：特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行：

記号 10010 番号 26990711

(他銀行から振り込む場合 店名：008

種目：普通 番号：26990711)

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

■三井住友銀行：新宿支店

普通預金：3390001

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

映画・ドキュメンタリーの紹介

映画ブロガー・ライターとして多方面で活躍されている杉本穂高氏の御厚意により、『ハフポスト日本版』に掲載の「『女性にとって世界最悪の場所』はなぜ生まれたのか？ ドキュメンタリー『ムクウェゲ』立山芽以子監督に聞く」と題した記事より、一部を掲載させていただきます。

◇「『女性にとって世界最悪の場所』はなぜ生まれたのか？ ドキュメンタリー『ムクウェゲ』立山芽以子監督に聞く」（ハフポスト日本版）

杉本穂高

20年以上に渡り、40万人超の女性たちがレイプ被害を受け続けているコンゴ民主共和国・東部ブカブ。組織的に行われている性暴力の背景には何があるのか？ その地で多くの女性を無償で治療を続けるムクウェゲ医師とはどんな人物なのか？

武装勢力によるレイプが多発するコンゴ民主共和国・東部ブカブは「女性にとって世界最悪の場所」と言われる。

そんな場所で、自らも命を狙われる危険を背負いながら、女性たちを救い続ける人がいる。2018年にノーベル平和賞を受賞したデニムクウェゲ医師だ。

ムクウェゲ氏の病院には、年間2500から3000人も女性たちが運び込まれてくるといふ。レイプ被害を受けた女性たちを20年以上にも渡って治療し続けてきたムクウェゲ氏は、性暴力が起きる要因の根本的な解決に向け、国際社会に訴え続けている。

公開中の映画『ムクウェゲ「女性にとって世界最悪の場所」で闘う医師』は、そんなムクウェゲ氏の活動を描くドキュメンタリー映画だ。（事務局注：2022年当時）

本作は、傷ついた女性たちの身体的治療にとどまらないムクウェゲ氏の幅広い活動を追いかけるとともに、コンゴの悲劇がグローバル経済の構造から生じている事実を明らかにする。

本作を監督したのは、TBSに所属する立山芽以子（たてやま・めいこ）さん。これまでもアフリカの国々を題材にドキュメンタリーを製作してきた監督の目に、ムクウェゲ氏の姿やコンゴの現状はどのように映ったのか、話を聞いた。（—中略—）

◇コンゴの悲劇の責任は国際社会にある

そもそも、コンゴの紛争を長引かせている要因は何なのだろうか。ここには、日本人である私たちにも関わりのあるグローバル経済の構造問題が横たわる。

コンゴは、レアメタルの一大生産地であり、そこで採れる鉱物は主にスマートフォンや電気自動車などの部品として用いられている。この利権をめぐる、武装勢力は争っているのだ。

「環境に優しいと言われる電気自動車に搭載するリチウムイオンには、コバルトというレアメタルが必須です。世界のコバルト生産の7割をコンゴが占めていて、電気自動車を作るためには、コンゴのコバルトが不可欠なんです」

コンゴの鉱物資源がきちんと国有化され、厳格な管理がなされた場合、私たちの生活に何が起きるだろうか。

「単純に言ってしまうと、コンゴの政府が正常に機能して、武装勢力が一掃されレアメタルの生産環境が整えば、資源の価格は高騰するかもしれませんが、もしかしたら、私たちはスマホも電気自動車も今の価格では買えなくなるかもしれません。ムクウェゲ先生がコンゴの悲劇の責任は国際社会にあると言うのはそういうことで、日本も含めて先進各国が、経済のために現状を黙認している状況があるんじゃないでしょうか」

コンゴの女性たちは、私たちの生活の犠牲になっている。このことをどう考えればいいのか、答えは容易には出せない。複雑なグローバル経済の構造問題を前に、個人でできることはあるのだろうか。

「こうすればいい、とシンプルに言えないのが苦しいところです。私もこういう作品を作っておいて、もちろんスマホも持っていますし、スマホのない生活ができるかと言われたら、無理だと思います。」

それに、ただ先進国がコンゴの鉱物を買わなくなれば、今度はそこで働いている人が失業してしまいます。コロナ禍で経済が悪化して武装勢力に加わる人がさらに増え、性暴力の件数も増加していると先生はおっしゃっていましたが、簡単に何かができるわけじゃないのは本当にもどかしい思いです」

それでも、結局は自分にできる小さなこと

から始めていくしかないんだと立山監督は考えている。

「きれいごとみたいになってしまうんですが、やっぱり自分たちの生活が誰の手で支えられているのか、そこに不公平はないのか、是正するためにはどうすればいいかを考え続けるしかないんだと思います。

知らないでいるより、知った方がいい。難しさを知った上で、フェアトレードのものをなるべく買うよう心がけるとか、大企業に働きかけるとか、知人と情報を共有するとか、小さな動きだったとしても、自分達にできるところからやっていくしかないのだと思います」

※記事全文は以下より、ぜひご参照ください。
https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_62216369e4b03bc49a987c95

ブカブ現地報告 (抄)

親愛なるドナーの皆さま

いつもご支援をいただき、誠にありがとうございます。「より良い未来のために、より良い学習をする」若者を教育することは、すべての国自体を教育することですが、残念ながら、学生の状況は決して良くありません。コンゴ東部での戦争は、コンゴ全体、特にブカブの穀倉地帯であるブカブ市を含む北キヴ州と南キヴ州の経済状況を混乱させています。一部の中学校では授業料が2倍になりました。私たちは彼らの授業料を賄うことができなくなっています。(一中略) 雨季が終わり、乾季が始まりました。常に暑く、いたるところにほこりが舞い、インフルエンザや咳の原因になります。さらに、資金の受け取りの遅れや学費の値上げも問題となっています。皆様からのご意見をお待ちしております。HINT AFRICA PROJECT をより良く運営するために、皆様から寄せられるご意見やご提案には真摯に耳を傾けます。児童・生徒、現地スタッフより皆様にご挨拶申し上げます。引き続きご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。 2024年12月1日

コーディネーター ムサギ・K・タデー

コーディネーター ワタキシ・W・ミリアム

HINT30 周年記念募金のお願い



◇アフリカ・コンゴに「スマホをプレゼントしよう！」プロジェクト

目標額 1,100 ドル(日本円約 170,000 円)

(スマートフォン購入費用 600 ドル

+ 年間維持費 500ドル)

HINT 創立 30 周年の機会に、Facebook や X、ブログなどの SNS を活用して、現地のスタッフや奨学生からの画像やレポートを直接発信いたします。

相互のコミュニケーションを円滑にし、情報発信を強化することを目指します。

皆さまのファンドレイジングへのご協力をよろしくお願いいたします。

HINT 事務局からのお知らせ

HINT 創立 30 周年記念・第 45 回エポペ・チャリティクリスマスへの後援

日時：2024年12月21日(土)

14:00~15:30(受付 13:30)

場所：カトリック麴町教会ザビエル聖堂

(JR・地下鉄四ツ谷駅徒歩1分)

後援費：1,000 円(詳細1ページ参照)

特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク (HINT) 事務局

〒164-0002 東京都中野区上高田 3-24-7 グリーンビル 2F 平兵衛√2 内

電話&FAX:03-6279-1080

ご連絡・お問い合わせ <http://www.epopee.co.jp/hint>